

第216回特別例会「イトアンド(株) (大阪王将) 関西工場見学と保津川下りで紅葉楽しむ」

経済人クラブ(生田圭一会長)第216回特別例会が、11月25日(土)に開催され、同僚者・ゲストを含む21人が参加しました。

今年の特別例会は、クラブ会員が勤務されている大阪王将ブランドで有名な「イトアンド(株)関西工場(枚方市)」を見学させていただいた後、「大阪王将長尾店」で昼食をとり、亀岡に移動。そこから嵯峨嵐山までの渓谷16kmを舟下りしながら秋の紅葉を楽しむという企画です。9時に大阪駅西口をトイレ付バスに乗って出発。車中では、生田会長の挨拶から始まり、永尾副会長の「大阪王将」と「餃子の王将」の違いのお話、参加者からの一言スピーチと続くと、突然、ブラジルに出張されている寺内会長のサンパウロからの電話があり、一同感激しました。

同社関西工場では、工場の西尾さんのご案内で冷凍餃子の製造工程を見学させていただきました。工場には見学通路がなく製造ラインの間近まで近づくので、製造現場に入る前に参加者は、時計など身につけているもので落ちるかもしれないものを外し、マスクを付けて帽子をかぶり、不織布でできたフード付きつなぎ服を着た後、粘着ローラーで体についた毛髪を取ってもらって、ようやく製造現場内に案内されました。従業員の方々は、製品への異物混入について、とても厳しく管理されていて、つなぎ服を着る前にまずアンダーウェアにある毛髪等を粘着ローラーで除去、つなぎ服を着てから三度粘着ローラー掛けを行って製造ラインに付くとのことでした。工場見学は、餃子の皮を作る工程からはじまりました。冷凍餃子と店舗で使う餃子の皮は作り方が違うそうです。次は餃子の具を作る工程、1回に400kgの具が作られていました。続いて、具を包む工程、包んだ餃子を90℃以上で蒸す工程、更に-30℃で冷凍する工程を経て、最後に羽根つき餃子のパッケージの工程です。それぞれの工程の検査はとても厳しく、「その程度なら大丈夫じゃないの」というようなものはねられていました。BtoBの品質管理では、「不良率何%以下」で契約する製品もありますから、全数良品を求められるBtoCの厳しさを再認識した工場見学でした。昼食は、大阪王将長尾店。餃子とビール最高でした。

店の前で記念写真を撮り、バスで亀岡に移動してよいよ「保津川下り」。船頭さんの軽妙なトークを聞きながら、トロッコ列車や紅葉する山々を眺め、本間代表幹事は櫂の使い方の練習をして、川下りを楽しみました。

当日は保津川の水量が少なく、通常より遅めの約1時間40分で船着き場の嵐山に到着。そこは、渡月橋を渡る人が何かを待つために行列しているように見えるほど、観光客が溢れていました。京都の観光資源のパワーを感じながらバスに乗り。車中で仁井副会長が閉めの挨拶を行い、特別例会は無事終了しました。

(昭和55年工学部卒 幹事 山崎 康裕)



KANSAI UNIVERSITY

KEIZAIJIN CLUB News 2018

*It started aiming to attempt cultivating friendship in November, 1963*

- 第214回例会
- 第215回例会
- 第216回特別例会
- 第217回例会

- 秋のゴルフコンペ
- 春のゴルフコンペ
- 若手会 VIPルームサッカー観戦
- 若手会 新年会



TOPICS

経済人クラブ 秋のゴルフコンペ



経済人クラブ(生田圭一会長)秋のゴルフコンペが、名門茨木カンツリー倶楽部東コースで9月13日に16人の参加で開催された。

今回から部会長が志水利達氏にかわっての第1回目の開催となった。若手メンバーを諸先輩の組に組み入れ、先輩たちの胸をお借りしてプレイさせていただきました。ありがとうございました。好評につき、次回以降も交流をより一層深めるために、若手と先輩方を混合して組み合わせをさせていただきます。

優勝は岩崎圭祐氏、準優勝は森岡慎治氏、3位は秋葉明氏であった。

(平成4年文学部卒 副代表幹事 横田 英哲)

経済人クラブ 春のゴルフコンペ

経済人クラブ(生田圭一会長)春のゴルフコンペが、名門茨木カンツリー倶楽部西コースで3月27日に20人の参加で開催された。

今回は、関西大学校友会会長で当クラブの顧問でもある寺内俊太郎様にご参加頂きコンペに花を添えて頂きました。

天候にも恵まれ、絶好のゴルフ日和でした。若手の参加も増えてきました。これからゴルフを始める方も、久しぶりにゴルフしようかと思われる方も、和気あいあいのコンペですので是非ご参加お待ちしております。優勝は堀義博氏、2位は西野修氏、3位は生田圭一氏であった。



(平成4年文学部卒 副代表幹事 横田 英哲)

KANSAI Univ. Keizaijin Club

2018年版

発行日: 2018年5月1日(年一回発行) 発行: 関西大学経済人クラブ  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学100周年記念会館内 (株) 関大パンセ 気付 電話: 06-6368-1054

事務局 〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 関西大学100周年記念会館内 (株) 関大パンセ 気付 関西大学経済人クラブ

TEL.06-6368-1054 FAX.06-6368-1976



KANSAI UNIVERSITY  
関西大学経済人クラブ  
http://ku-keizaijinclub.jp/

第216回特別例会  
「イトアンド(株)(大阪王将) 関西工場  
見学と保津川下り」  
(関連記事 裏表紙参照)

## 第214回例会「船井総研中谷社長の講演聞く」



経済人クラブ（栗原照次郎会長）第214回例会が、6月13日に大阪新阪急ホテルで開催され、クラブ名誉会長の池内啓三理事長、名誉顧問の上原洋允・畑下辰典両法人顧問らの来賓と特別参加者を含め94人が出席した。年度最初の例会となるため、例会に先立ち、会員による平成29年度総会を開催。栗原会長挨拶の後、平成28年度事業報告・会計報告、規約の一部改正、任期満了による役員改選などの議案が審議され、規約の改正では、参与職の新設などが原案どおり承認された。また、役員改選では、栗原会長の勇退により、新会長に生田圭一副会長が就任。副会長に仁井ひろみ副代表幹事が、副代表幹事に楠隆夫・横田英哲両幹事が追加就任し、幹事にも新しく10人が就任する役員案が承認された。生田新会長の就任挨拶の後、栗原前会長に記念品を贈り、これまでの尽力に謝意を表して総会を終了した。

例会は、学歌斉唱、生田会長挨拶の後、早速、第1部講演に移り、講師に(株)船井総合研究所 代表取締役社長 中谷貴之氏（平3学文）を迎え、約1時間に亘り『働き手不足時代の中小企業利益3倍業績アップ方』というテーマでお話いただいた。最初のテーマ「採用一番化、定着一番化が業績アップの最短距離！」について、①人・人・人の時代、中小企業の社長の仕事は採用、②採用ファースト、社員満足ファーストが業績をあげる、そして「中小企業の働き方改革と生産性アップ法はこう進める！」では、①残業、休日出勤の時代ではなくなっている、②機械化、AI化などを推進し、成果主義を見直す、③業界一狭い専門にすることで高収益を考える。以上について、全国のコンサルティングを受けられている中小企業の実例をあげながら、配布資料をもとに詳しく説明され、さらに船井総研を実験場にして成功した事例を中小企業に提案する実績を強調された。また、個人主義のコンサルティング会社からチーム主義のコンサルティングへ変更することにより、業界にない変革を行ってきたことを強調され、今後の中小企業のあり方を述べられた。最期に、「ちょうど本日、(株)船井総合研究所の時価総額が過去最高になった」と報告され、講演を結ばれた。

その後、講師を囲んでの懇親会では、池内理事長の挨拶、寺内俊太郎校友会長の乾杯の後、サプライズ参加で、去る5月20日、東京・有明コロシアムでWBC世界ライトフライ級王者ガニガン・ロペス（メキシコ）と対戦し、世界王座獲得に成功した拳四朗選手（平26学人健）の参加で懇親会は大いに盛り上がり、写真撮影、サイン会で賑わった。

（平成8年工学部生物工学科卒 幹事 吉見 淳史）



## YOUNG CLUB

### 若手会主催の交流会「吹田スタジアム・VIPルームでのサッカー観戦！」



経済人クラブ若手会主催の交流会が、「吹田スタジアム・VIPルームでのサッカー観戦！」と題して、10月14日に「吹田市立スタジアム（ガンバ大阪 メインホーム）」で開催された。今回は、ガンバ大阪対アルビレックス新潟の試合をVIPルームで観戦した。普段入れないVIPルームで、グラウンドが意外なほど近くに見ることができ、試合の熱気に参加者は大いに盛り上がった。2016年11月に開催されたワインセミナーに引き続き、経済人クラブ本会の先輩方にもご協力いただいたこともあって、たこ家道頓堀くくるのたこ焼き、ミシュランの星がついている串カツ、行列ができるお店の串カツサンドなど豪華なフードも用意され、また、ガンバ大阪の若手選手3人にもご登場いただき、それぞれの記憶に刻まれる楽しい会となった。

本会の先輩方の懐の深さと、若手のエネルギーが化学反応を起こし素晴らしい会となった今回を超える次回の若手会を開催できるよう、幹事一同チャレンジしたいと考えているところである。（平成17年商学部卒 若手会幹事 辻 秀明）

### 若手会主催「ジャンボ釣船つり吉での新年会！」

経済人クラブ若手会主催で「ジャンボ釣船つり吉での新年会！」が1月25日に大阪新世界の「ジャンボ釣船つり吉」で開催された。

今回は、活気あふれる若手15人の参加による開催となった。会場は通天閣の真下にある新世界のど真ん中の立地にあり、専用の釣り堀を有する大型飲食施設で、定番の串カツなどの通常の飲食のほか、タイアジなど釣った魚を造りや、塩焼き、アクアパッツァなど調理方法を選んで食べることができ、こてこての大阪文化を体験できることで話題となっている。各会員は懇親を楽しんだ他、4チームに分かれての釣り大会では景品も用意され、各チーム大物を釣り上げるため、夢中で魚釣りに取り組んだ。また2次会では、同じく新世界にて串カツなど大阪を代表する食をめぐり、新世界という大阪独特の世界を楽しんだ。

参加者それぞれが楽しく、継続的に参加したいと思える会を目指し、次回以降も関西大学若手校友のための企画を開催できるよう幹事一同、会の運営に取り組んでいきたい。（平成18年経済学部卒 幹事 今村 聡）



## 第215回例会「ほめる達人が人と組織を活性化！」

経済人クラブ（生田圭一会長）第215回例会が、9月11日に大阪新阪急ホテルで開催され、クラブ名誉顧問の上原洋允法人顧問、同名誉副会長の芝井敬司学長、同顧問の寺内俊太郎校友会長らの来賓と特別参加者を含め48人が出席した。

学歌斉唱、生田会長挨拶の後、早速、第1部講演に移り、講師に校友で一般社団法人日本ほめる達人協会理事長の西村貴好氏（平2法）を迎え、同氏から約1時間に亘り『「ほめる達人が人と組織を活性化！」～あなたの周りには、ダイヤの原石がいっぱい！～』というテーマでお話し頂いた。

西村氏は、過去の経験から培った、ほめて伸ばすことの大切さや必要性について、会場スクリーンを使用した参加者体験型のプログラムや日本ほめる達人協会会員の実践事例をあげて詳しく説明された。

まず、会場スクリーンを使用した参加者体験型のプログラムでは、動画やトリックアートをを用い、人間の本能、思い込み、見る人のおかれた状況によって、映像としてとらえられた結果が人それぞれ異なり、また、時として大切なものが見落とされていること、自己と他人とは決定的に異なっていることを強く強調され、参加者からは体験プログラムの結果、驚きの声があがっていた。実践事例の紹介では、ほめちぎる教習所として全国で知られる日本ほめる達人協会（ほめ達）会員の三重県南部自動車学校等の成功事例が紹介された。教官が教習生に対しほめて伸ばす技術を巧みに駆使することにより、教習試験合格率を劇的に上昇させ、事故率を大幅に減少させることに成功しており、ほめ達効果を実感できる象徴的な事例であった。また、西村氏は、経営者が社員をほめて伸ばすことは経営資源の最大活用であることを提唱しており、業績を上げるリーダーの条件、社員をほめて伸ばすための8つのポイント、さらに、家庭内におけるほめ達活用ノウハウの実践を例会参加者に提案した。特に有効ですぐに実践できるものとして、3S+1（「すごい！」「さすが！」「素晴らしい！」の3Sに加えて、「そうくるか！」「惜しい！」の+1）の実践法は、第2部の懇親会でも早速参加者同士で取り入れられ実践されていた。最後に、魔法の言葉として、相手の名前を言ってあげる、「ありがとう！」と感謝の気持ちを伝えることの大切さと、経営者は常に明かりを照らす存在となり



ダイヤの原石を照らし、ひいてはその照り返しにより輝く経営者にもなることを説き、講演を結ばれた。志水利達副会長から謝辞を述べ、講演会を終了した。

その後、講師を囲んでの懇親会では、芝井学長の挨拶、寺内校友会長の乾杯の後、新入会員及び特別参加者の自己紹介、次回第216回特別例会の案内、ゴルフ部会からの案内、校友総会の案内などが続き、懇親会は大いに盛り上がった。

（平成18年経済学部卒 幹事 今村 聡）

## 第217回例会「日本の経済発展と武士道～宮本武蔵の勝負の兵法論を探って～」

経済人クラブ（生田圭一会長）第217回例会が、2018年2月5日に大阪新阪急ホテル「花の間」で開催され、当クラブ名誉会長の池内敬三理事長、同顧問の寺内俊太郎校友会長、同参与の森茂実校友会事務局長の来賓と特別参加者を含め46人が出席した。

学歌斉唱、生田会長挨拶の後、早速、第1部講演に移り、講師に関西大学国際部教授アレキサンダー・ベネット先生を迎え、同氏から約1時間に亘り『日本の経済発展と武士道～宮本武蔵の勝負の兵法論を探って～』というテーマでお話し頂いた。

ベネット先生は、ニュージーランド出身ながら剣道やなぎなたの有段者でもあり、文学ではなく武士道の観点から宮本武蔵の「五輪書」や「宮本武蔵の勝負の兵法論」を英訳されておられ、宮本武蔵の人物像や人物像から汲み取った勝負の兵法論について詳しく説明された。

まず、最初に17歳で剣道と出会い、鍛錬という言葉と出会われました。鍛錬という言葉は宮本武蔵が書き記した「五輪書」の中で「千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を錬とす」と記述を残しており、これは、その技を覚えたいと思ったら、千日ひたすら稽古を積んで、やっと技を習得する事ができ、さらに万日の稽古でその技を練り上げる事ができるということだそうです。この言葉をきっかけに宮本武蔵と出会われました。

印象的な言葉に、「観見の目付」、「遠山の目付」の説明をされた際に、遠くを見るように近くを見ることで全体を見る事が大事であり、さらには外見だけではなく相手の心を見る「心眼」が大事だと説明された。心眼を意識することで、相手が何を考えているのかなど相手の心理を見る事ができ、ビジネスも上手くいくといった説明をされた。最後に、1645年に亡くなった宮本武蔵の言葉は現代社会でも非常に参考になり宝物だとして、講演を結ばれた。

その後、講師を囲んでの懇親会では、池内啓三学長の挨拶、寺内校友会長の乾杯の後、新入会員の自己紹介、ゴルフ部会からの案内や4月より当クラブの事務局となる関大パンセの木下様からの挨拶などが続き、懇親会は大いに盛り上がった。

（平成7年工学部機械工学科卒 幹事 伏見 義仁）

